

生駒市ごみ減量市民会議(H29年度第3回) 会議録(要旨)

1. 開催日時 平成29年10月10日(火) 午後1時30分～午後3時25分
2. 市役所4階403・404会議室
3. 会議次第

報告事項

- (1) 夏休み環境自由研究「ごみキエーロしよう！」
生ごみ処理器「キエーロ」製作講座実施結果
- (2) 一日環境教室実施結果
- (3) 生ごみ処理器「キエーロ」アンケート集計結果

協議事項

- (1) 前回会議での分科会について
- (2) いこま魅力博での啓発活動について
- (3) 自治会懇談会について

4. 出席者(敬称略)

【参加者】坂本 剛伸、藤堂 宏子、藤澤 清二、永野 洋子、山下 博史、藤尾 庸子、
下山 一則、奥田 高弘、小山 忠昭、山口 昭夫、藤中 章夫、寺井 孝幸、
大隈 利明

【事務局】小紫(市長)、吉岡(市民部長)、吉川(環境保全課長)、竹本(環境保全課
主幹)、大窪(環境モデル都市推進課課長補佐)、西井(環境保全課事業係長)

5. 欠席者(敬称略) 石川 千明、田中 勝久

6. 傍聴者 0名

7. 会議内容(要旨)

<市長挨拶>

ごみ減量市民会議に大変ご尽力をいただきありがとうございます。

会議をたちあげるときに、いろいろと申し上げたりご意見をただいたりして
おりましたが、正にこの会議はここでご議論いただくことも勿論のこと、実際の市
民意識がどういうところにあるのか、課題をどう考えておられるのか、有料化して
良かったこととか、課題とか、実際の市民を代表して集まっていたらいるこの
会議の皆様が、市民が市民の意見を聞いていくと、行政の職員もしっかりそれに答
える汗をかいていかなければならないということですが、市民会議の皆様が市民の
声を聞いていただいて、それをこの会議で議論していただき、次の具体的な行動に
繋げていただくという、ある意味、全国的にも先進的な動きなんだろうというふう
に思っております。この場で議論するだけではなくて、何か行動に繋げていったり、
市民の声を我々と共に市民の方が拾っていただいて、次のアクションに繋げていた
だくと意味では、ごみ減量市民会議は、正に、一つの生駒市のごみ半減化とか有料
化とか、それを越えた非常に意味がある行動だと思っております。

市民意識の把握、有料化のピーアールとか、資源ごみの分別をしっかりしていた

だくためのピーアールでありますとか、生ごみの削減、キエーロの普及、さまざまな具体的な取り組みを進めていただいておりますけれども、この会議を設置して2年目になります。いろんな活動をしていただく中で、「キエーロ」がうまくいっている部分と、中々難しいなという所が見えてきたりとか、最近社会の動きも変わってきまして、食品ロスの話は依然から少し話がございましたけれど、最近、非常に食品ロスに関する世界的な注目も高まっております。それを生駒市でどうごみの削減に繋げていくのかということ。非常に社会のほうも変わってきていますし、市民会議を先頭にした取組の中から、生駒市がこれからごみの行政をどう進めていくのかということも、行動していく中で、市民の意見を聞いていく中で、更に強化していく部分もあれば、少し軌道修正していくところとか、いろんなことが見えてくるんだということがあると思います。お願いしたいことは、私を含め、行政職員、しっかりと今まで以上に汗をかいて責任をもって対応していく前提で、ここに居られる皆様方にも今までの活動の中から見えてきた生駒市のごみの取組をもう少しこういうところに力を入れてやろう、行政もこういう形で、市民会議また市民もこういう形でやっていこうという提案があれば是非やっていただきたいと思っておりますし、いままでやってきた取組でももう少しこういう取組も加えてやっていったほうが良いのではないとか、こういう団体と連携していったら良いのではないとか、こういうようなことでしっかりと更に進めていくところとか、逆に言えば変化をさせていただきながら、より良い形にしていくことも必要かもしれません。我々も当然市の行政としてこういう方向でやろうということは、ご提案させていただいて、ご相談もさせていただきますが、逆に市民の皆さんと接していただいて、こういうふうにしたほうが良いというお話があれば、市民会議のほうから我々にいただければ、大変有難いというふうに思っております。

燃えるごみの減量は、平成30年度までに平成25年度比で25%当面の目標としてそういう物をマニフェストに掲げておりますけれども、有料化の後も、有料化の効果は出ていますが、もう一歩が難しいのは、生駒市だけではなく、他の自治体でもそうなっておりますけれども、生駒市でももう一段階踏み込んでいけるような取り組みをどうしたら良いのかということをお客様と共に考えさせていただきたいと思っております。

このあと少し会議に残りますので、何かあれば、活動に向けて感じたこととか、行政側に申し上げていただくことがございましたら、私も一緒に聞かせていただきたいと思っております。

皆様と1年間以上活動いただいたことをフィードバックしていただけたらと思っております。

座長 今日、市長にお越しいただいたのは、タイミングで準備段階からで1年半、今年度に限って見れば、上期が終わって下期を迎え、社会情勢も刻々と変わっていくが、それも踏まえて、現在、市が思っている考えがどういう立ち位置になるのか、ということを確認したくて、わざわざ市長にお越しいただきまし

た。

今の市長のほうからもお話がありましたが、市のスタンスについては、整理が出来たのではないかと考えております。平成30年度までに25%削減していくというターゲットは、継続していく、しかし、これを実現していく為には、現実問題で課題が見えてくるのは、皆さんはご承知のとおりだと思います。それでも一つの生ごみは、キエーロ以外の方法を模索するというお答えがありましたけれど、このチームでキエーロを普及していきましようという方針に基づいて、去年から今年の3月まで、このメンバーがトライアルをやったわけです、キエーロをやってみて、どういものかを啓発していく者が実体験したほうが良いだろうということで、全員でやってみました。その時の効果には個々に温度差があると思いますが、キエーロでは、ごみの半減は難しいという評価だと思います。4月5月だったと思いますが、それでも市がキエーロの普及ということが補助金も多く出していることもあり、それをベースにして進めてきましたが、現実として何か疑問を感じるなと思うわけです。生駒市がごみ半減プランで循環型社会・低炭素社会の実現を目指しましようということでスタートしているが、プラ・ペットボトル・ミックスペーパー・新聞紙については、分別しましようという啓発は出来るが、その資源ごみが循環型社会の中で回るわけですが、経済の社会でもビジネスモデルとして確定しているわけです。だから市民に分別していきましようとしています。3番目に今有料化を実施いたしましたので、量のあるプラやミックスペーパーが有料ごみの中から出ていけば、燃えるごみが減っていくわけです。これは環境面から見ても経済社会から見ても理屈が通るんです。生ごみはどうかというと、キエーロでお願いしますと言うことは、ある人から言われて同意見ですが、市民に負担を求めることなんです。ビジネスモデルが無くて、生ごみを減らしていきましよう、もったいないとか食品ロスとかではなくて、料理で残ったものですが、それをキエーロで処理をしていきましようと言ったものについて、経済効果が見えないんです。そのへんを前提にしながら生ごみを減らしていくことに対してずっと自己内部的に矛盾を感じてきました。しかし、今現在キエーロを普及させたいこうということに対して、皆、悩みながら進めていこうとしている現状かだと思います。市長の言葉では、「社会情勢が変わって生ごみの中には、キエーロにいく部分と食品ロスの部分がありますね」ということでしたが分かったわけですね。別にキエーロだけではなくて、食品ロスも含めた社会環境の変化、世界情勢の観点から見ても、資源ごみとしての生ごみという観点から対応していかないと、先程、市長のほうから、市民が市民の声を聞いて、課題を見つけてそこでぶつけていくループが出来ているのは、そのとおりですが、生ごみとか資源ごみを分別しましようというのは、対象が全住民なんです。いろんな考えの方がいらっやる。積極的に循環型社会を実現していきましようとしている方もおられるが、プラ・ミックスペーパーなど資源ごみは経済の流通性があるからやって

いるという方もおられます。キエーロだけでやっていくというのは見なおす時期にきているとずっと思っていました。そういう背景がありましたので、今日、市長にお越しいただいたわけでございます。

市長 ありがとうございます。私の思ったところを申し上げたいと思います。経済的な効果が生ごみに見え難いというのは、例えば、プラとか新聞とかは、リサイクルしたあと、実際に活用され出てくるが、キエーロはそのあとが見えてこないという意味で経済効果とおっしゃっているのですか。

座長 そうです。

市長 生ごみでもキエーロであれば、そのまま消えてしまうことになるんですが、コンポストやうちのエコパークでやっている分は、エコパークは効率面でどうかと思う部分もあるが、堆肥化したり、電気・ガスを使うという分もあるので、そこは一定のリサイクルというのが出てくるというのが一つと、キエーロ自体は少し違うんですが、もともと肥料化・堆肥化しても使い道がないというので、生駒市がもっと農業が盛んでどんどん堆肥化すれば需要があるのであれば、そういう方向性を目指すべきだと思うんですが、住宅都市としての特性も踏まえてキエーロというものを、特にマンションとかそんなに庭が広くないというところでは、キエーロが一つの選択肢であるということをやっているかと思いません。

議会的一般質問でもありましたが、プラも一応今循環ということを言っていますが、プラのリサイクルあれだけして、どのような形で質の良いリサイクルがされて回っているかという、コストほどリサイクルの質があまり良くないのではないか、という議論は、ずっと全国どこでもあって、生駒市は非常にきれいに分別して出しているけれども、それでも、プラスチックの運搬コストが掛かる中でやっているが、それからリサイクルされた製品がどれだけ使われているかという、常に議論があるので、生ごみに関する事のみならず、プラも新聞も、生ごみも掛けたコストだけ、勿論環境には良いことだが、それを基にしたリサイクルがどれだけ社会の役にたっているか、質を上げていくというのは、生ごみだけではなく、プラ・紙にも関係する話なんだろうなというふうに思います。

だからこそ、たぶんリサイクルというよりは、そもそもプラスチック製容器包装は、あまりレジ袋を使わないとか、紙も無駄なものを無くしましょうとか、生ごみも、勿論、リサイクルしていくことも考えなければいけないが、生ごみが発生する前に止める意味での食品ロスが議論されているんだと思います。生ごみも座長がおっしゃった使ったあとの残渣はどうしようもないが、組成調査すると使っていない生ごみが相当量あるので、料理する以前の問題で、腐ったり、しなびた野菜とか、賞味期限が切れた牛乳、冷凍食品とか、そういうところも含めて考えると、やっぱり食品ロスとかも含めた生ごみ対策というのは、これからやっていかなければならないことがあると思います。

生ごみ対策が難しいということと、キエーロの取り組みだけで、50%という目標に届かないという疑問が出るのは、ごもつともだと思えますし、キエーロだけでいくのは難しいと思えます。市民の皆さん、特に市民会議の皆さんには一番初めにご相談をしなければならないと思ってる所なんです、今は30年度までに平成25年度比で25%と数字を言っていますが、50%という目標を今後どう考えていくのか、私は、これは一つの象徴的な目標としてすごく大切なものだと思うので、そう簡単に、生ごみを完全に戸別収集してリサイクルするというのは、今までの生駒市からいうと難しいところはありますけど、50%というのは、そう簡単に降ろしたくないところもあるんですが、より先ほどの社会情勢も含めた上で、生駒の方の市民負担も考えた上で、どのくらいの所を目指していくのかというのは、しっかりともう一度考えなければならぬと思えます。中々難しい、誤解を与えないように申しあげたいのですがその50%は難しいから、適正な達成出来そうなところにちょっと変えようかという単純なものでもないですし、逆に50%という数字が決まったときに、すごく積み上げで科学的に分析していたかと言うと、やはり一つのまずは目標、目指すべき方向というようなことで上げた数字だということだと思えます。それ自体を私はまったく否定しません。50という数字があるから今まで頑張ってきたということもあると思えます。やはり、達成年限も近づいてきておりますので、生ごみの問題、やはりこれだけやってきていただいておりますが難しいというところも相当でてきておりますので、食品ロスとかは今後もやっていかなければならないと思っておりますが、もう少し50%削減という目標をどのように考えていくのかもそろそろちゃんと議論しなければならない時期に来ているのかと考えています。この中でもおそらく今申し上げたようなことを色んな議論があると思えますが議会でもここまではっきり言っていないんですが、燃やすごみ半減という目標をどういうふうに考えていくのかということをお問われて、いまの段階では目標に向かって頑張っていきますと言っておりますが、これまでの取組と課題、効果を分析して検討はしていきますという形にしております。市民会議の皆様とそのへんは考えていきたいと考えております。先ほど座長からお話がありましたが、生ごみについては、非常に難しい話でありますし、キエーロについては、ちょっと特殊なやり方がありますが、やはり、キエーロで50%はいきませんし、キエーロは、その後のリサイクルとか、頑張ってやった後に何になるかの説明が難しい。それはおっしゃった通りだと思います。有料化やった分コストがうくというのは、説明の一助にはなるが、それだけを説明するのは中々難しい。と座長も考えておられると思えますが、住宅都市生駒での生ごみ対策というのは、キエーロというのは、有料化の話とあいまって、キエーロでドカッとは減りませんが、入れておくとなんぼかは減っていくのは自分も経験はしておりますし、生ごみ対策の一つの取組としては、やっぱり、これからも、少し息の長い取り組みかもしれませんが、ここでも議論をいただき

ますが、今の段階ではもう少し続けていけないかと思えます。完全な特効薬としては難しいと思えますが、目標の置き方の話もそうですし、食品ロスのような新しい切り口の話も入れていかなければならないと考えております。市民の皆様はどうゆうふうに理解を得ていくのかということもそうですし、今後のごみ行政の方向性を見出していくのかを考えていきたいと思えます。

座長 市民と話していると、市民と感覚がずれているところがあります。なぜかというと「有料化になってごみが減りましたか?」と聞けば、減ってますと言ってますが、頭の中は45ℓが30ℓ・15ℓになりましたと考えている。ウェイト(重さ)ではなく容積(ℓ)、生駒市が言う何%減量というのは、重さ、トンなんですよ。一般の主婦の人はそういう感覚をもっていない。1年間やって、当初、ミックスペーパーという定義が中々固定化しできなかったんですが、プラは元々3年ぐらいやっていて、ミックスペーパーも啓発するようになって、プラが燃えるごみから出て、ミックスペーパーが出たから、15ℓで良いとなった。量的には生ごみは感覚としては持って無いと多く聞きます。ミックスペーパーとプラはこんなに量があるから分別すれば減ると言えるが、生ごみは言えない。だから「何のためにするの」ということになる。

市長 ごみ半減の目標は、重量でいっているが、有料化は容量でやっているの、一定の関連はあるが、生ごみは重い、プラやミックスペーパーは軽い等を考えると、一対一対応でないの、目標は重さなのに、なぜ有料化は容積かという話からまずあるんですね。おっしゃるとおり、生ごみは重いけれども容積はあまりないので、私も話していると45ℓが30ℓになったとか、二人暮らしなので7ℓでいけるとかいう話を聞いて、それはまあ否定することでもなくて、努力していただきありがとうございますと言っているんです。生ごみは、目で見て減っているものではないから、いや「重さなんですよ」といえば、難しい「有料化は容積でやっているんじゃないの」ということになる。有料化は、重さを計れないから袋でやっているんですが、重さも意識してもらって「重さを減らすことも重要なものなんですよ」ということをどういうふうにご理解いただくかというものそうですし・・・

座長 そこをご教授いただきたいんですが、なんで kg(重さ)なんですかとの説明は難しいです。市民の生活で減らしていくわけですから、大阪のセミナーに行った時も全国的に kg(重さ)なんですよ。全国の統計も重さなんです。だからどうかとは、言えないですが、市民感覚とずれていると思うわけです。

市長 ごみを処理する上で、容積よりは重さのほうがインパクトがあるからとか、スタートがなんかあったと思うんですが、どこでも皆、重量目標にしているのは、そういうことだと思えます。本当は、ごみの有料化も重さ単位でとしなければならぬかもしれませんが、実際にいちいち計るわけにもいかなないので、容積で代替しているということだと思えますが、その部分が捻じれているので、ストレートに市民に届き難いというのは、おっしゃる通りですが、そこで今ぽ

んと容量目標に切り替えますというのは、どこまでいいのかということもあり、逆に重量で目標設定をしている経緯もあるので、市民感覚と今まで重量で目標設定している経緯でどう考えていくのかということはあるかなと思います。

参加者 議論と掛け離れるかもしれませんが、私は汚いものばかり扱ってきた人間です。ごみ処理というのは、結論ですが、これしかないというところ、今座長は、ビジネスモデルは無いとおっしゃったんですが、小規模でビジネスモデルにしているところが一杯あります。個人的な興味でそういうところを覗いてきたので、畜産廃棄物を集めて来て、処理して肥料にして売る。グルグル回してお金を儲けている。そういうシステムを見に行き行って取り組んできたらいけないのか。ターゲットは40%生ごみで50%に下げられるかもしれないとなったら、プロセスはわかりません。市の調整業務でいろんな調整しながらやらなければならないが、なんとか調整できないかというのが私の気持ちです。

市長 その通りだと思います。さっきの話と矛盾するものではなくて、キエーロでいうと消えるので、消えておしまいになる。それ自体は意味があることだと思いますが、そのあと堆肥化したりとかに繋がらないのがキエーロで、逆にいえば、さっき申し上げたように生駒市でどんどん堆肥化しても使う先がないということがないので…

参加者 エコパークに入れるのは、減量化していない。どんどんやったら、生ごみなら60分の1に、畜産廃棄物なら120分の1になります。実際にやっているところがあります。どんどん堆肥化すればいい、生駒でも花壇に使っている人もいっぱいいる。畑をつくっている人も安く買えれば買います。悪いけれども、エコパークで出したものは臭くて使えないと随分怒られたこともあります。臭くなくて、綺麗な花が咲き、良い作物が出来るものであれば、生駒の市民でなくても良いのではないかな。

市長 全部の家庭から集めてきたすごい量の生ごみを堆肥化して、しかも集めるコストもかかるし、そうするにはエコパークを何億か、もしかすれば何十億もかけて改修が必要になるかもしれない。

参加者 キエーロでここまでやってきたのであれば、キエーロの大規模化・キエーロの工業化をやったら、お金もかからない、水もでない、臭いも出ないというシステムがあると、それを導入すれば良いのではないですか。ごみ焼却場の横に作って、処理できないプラ等を燃やせば良いのではないかな。頭の中でわかっているが、一步、プロセスがわからないだけだが。

参加者 私達は、市民会議ということで、市民目線で続けてきたわけですけど、この前立ち話で、集積所で、有料化になる前は10個袋があったが今は4個になったと、現にごみが目に見えて減っている。難しいグラムがどうかではなく、見た目がどうかではなく、主婦の目で見たら既に減っている。プラの集積所は、雪山のようになっている。缶ごみの時も山のようにある。現に市民レベルでは50%ほど減っていると自負していて、それに付いて行政から小さなエリ

アのお褒めの言葉が無いねと、こんなに努力して網をかけてやって、見ただけで10あったものが現に5になっている。葉っぱとかの袋もある。紙袋もある。新聞は新聞で集めてある。現に生ごみとして黄色い袋に入っているのは、減っているが、全体では減っていないと、その辺が不思議でしかたがない。一度モデル事業をしたときに、グラムを計ってやりましたが、モデル事業の地区だけでもどうゆうふう減ったとか、どうゆう努力をしてここまで減ったとか、いろいろ難しい専門性から見たら、キエーロもありだけれど、主婦レベルの目線に戻ってもらって、やっぱり、努力した結果も評価してもらいたいね、というのがこの前の立ち話で出て、黄色い指定袋に入っているものでも、まだ分別する余地はあるねと、自分たちで思っているんです。でも、ついごみの日だから出てしまっている私達がいったり、食品ロスでまだ食べられるけれど、ごみの日なので出してしまうという主婦の目線というのもあるのも現実なので、食品ロスをもう少しがんばろうと思っている。健康課は、いま、食育の推進で基本計画を立ち上げていて、食品ロスが柱になってきているんです。全然関係の無いところが、食品ロスをワーワー言っていて、環境のどっぷりしているところが、食品ロスをかすっていないなど、初めに、私は食品ロスをやりたいと言っていた。事業部長を立ち上げて、食品ロスの事業をやっているところとやる気満々だったんですが、キエーロでほぼ1年終わりそうになっているので寂しい気持ちになっている。一度、住民の目線に立ち戻って、難しい話はどうこうよりも、住民が何を考えているか、苦勞している分をどうしているか、さぐってもらって、分別・もったいないレベルを頑張ってもらっていかないと市民会議はちょっと難しいかなと実感しています。

市長 いくつも大切な話があって、一つは、キエーロは市民の意識とか、農家さんで無くてもできる生ごみ対策としてスタートしていろいろやってもらったんですが、中々、あれもこれも出来ないという部分があるかもしれませんが、キエーロをやっているから食品ロスは出来ないということでもないで、そこは勿論進めていけたら良いなと思っています。

もう一つは、さっきも冒頭で申し上げましたけれど、市民会議の皆様にも、普通だったら、ここまでやってもらうのは、申し訳ないなと思う程、市民との間に立っているいろいろやっただいていただいているのは、すごく大変なご苦勞だと思います。そういうところとか、実際に集積所まで行っていただいて、有料化後、集積所でトラブルがないように、こまめに見ていただいていますので、そういうところに関しては、担当課から勿論申し上げているのかとは思いますが、きちんとお礼もお伝えしなければならぬと思いますし、モデル事業の結果を受け止めて、私達も何が出来るのか、感謝の気持ちとか、それが無いと市民との協働とかはとても虚しい話になりますし、それは当然、市民にかいていただく汗以上に、私達が汗をかくというのは、協働の一番の基本原則だと思います。

後は、先の座長の話とも関連するんですが、目標は、公式には重量目標、重

さなんです、やはり、見たところ、明らかに、こうなっているというところは、なんかの形で生駒市においては、目標をどうゆうふうと考えていくのかということも議論していく必要があるのかと思います。重量目標を完全に無くすことは難しいかもしれませんが、重さの方は、10何パーセントしか減っていませんが、大きさや容積は半分近くになって、成果が出ている。重量もやらなくてはならないので何が出来るのかなど、成果が出ている部分があるともう少し頑張ってみようかとの気持ちになる。そういうところはやっつけていかなければならないし、評価できる指標というのもしっかりと取っつけていかなければならないし、ご努力いただいていることは見た感じでわかります。うちの地元でも、ごみが減っている話を聞きます。そのところはきちんと評価しつつ、重さの方はどうしたらいいのかということ、評価をすれば、はずみがつきます。それはおっしゃるとおりかと思います。

事務局 まだ、いろいろあると思いますので、時間がありませんので・・・

市長 一通り、一言ずつでも話ができれば良かったです。キエーロは、具体的な取り組みとして設定させていただいた部分もあるんですが、食品ロス・他にもなにかあれば、3つも同時にできないとの意見もあるかも知れませんが、行政もうまくやることをやりながら、他の団体で協力していただけたところも探しながら、食品ロスのところで、いろんな活動をしていただけたところは市民団体にもありますので、うまくそのへんの力を結集できればだと、市民会議がコアになっていくということだと思っております、そこから良い形で広がっていったらとても良いと思っています。

市民会議の1年半の取組は、大変有難いと思っております。さらに良い形で行政も協力して出来ますように、しっかりやっていきたいと思っております。この会議の結果は、ちゃんと聞いていますし、私もまたお邪魔もしますのでよろしくお願いします。

《市長退席》

報告事項

●夏休み環境自由研究「ごみキエーロしよう！」

生ごみ処理器「キエーロ」製作講座実施結果

事務局 <資料 夏休み環境自由研究「ごみキエーロしよう！」生ごみ処理器「キエーロ」製作講座実施結果の説明>

座長 事務局の説明に対して質問やご意見ございませんか。

《質問・意見なし》

●一日環境教室実施結果

事務局 <資料 一日環境教室実施結果の説明>

座長 事務局の説明に対して質問やご意見ございませんか。

参加者 参加して、対象が小学生だったので全て完全に理解されているかは疑問に思ったが、アンケートを見てそれなりに理解されている感じはします。

参加者 くるくる館で小学生に説明したが、小学生は初めての試みだったので理解されるか不安だった。特にプラスチック製容器包装で、ストローとかは対象ではない説明はしきれないと感じ難しかったです。

参加者 資源ごみの収集で毎年小4学年生を対象に説明をしているが、子どもにどこまで伝えられるかは難しいと思っている。

参加者 話の出たストローやクリーニング店から出るビニールの袋は、プラスチック製容器包装と成分が同じなので本来同じようにリサイクル出来る。なぜ資源ごみとして出せないのはいつも疑問に感じている。ごみとして捨てるのは勿体ない。

参加者 プラスチック製容器包装にまじっていたビニールの袋は、ごみとして処分せずに別の方法でリサイクルしている。

参加者 プラスチック製品は、資源ごみとして回収してもらえない、ごみになることに問題がある。

事務局 その点については、生駒市だけでなく全国レベルで都市清掃会議を通じて国に毎年要望しているが、なかなか聞き入れてもらえない状況がある。今後も要望は続けていきたい。

座長 アンケート結果を見るとすべて前向きなものが多いので良かったと思っています。否定的なものがない。今回は、要望が多い紙類が良いのではないかと。プラスチック製容器包装から出来るパレットは日常的ではなくイメージがわからない。

参加者 プラスチック製容器包装の再生をしているリサイクル・アンド・イコールでは、生駒市が出しているものに大変良い評価をいただいている。

参加者 生駒の主婦層は、丁寧に分けてもらっている。袋の中を覗いてもきれいになっている。

事務局 ペットボトルについても中間処理が良いので最高の品質で排出先から同様に高い評価を受けている。

参加者 生駒の品質が良いのであれば、「生駒の品質はすごい」「他から褒められた」と広報に載せれば、皆さん頑張って分別するし、張り合いになる。市民にお願いばかりしてはだめだ。

参加者 アンケートで質問されているが、なにかの機会に回答できないのか。市に意見を言ったのにほったらかしにしては、マイナスの方向に働くので何かできないのか。

事務局 参加者にピンポイントで返すのは簡単だが、それだけではいけないと思っている。

参加者 一人が疑問に思うのであれば、他の人も疑問に思っていること

座長 広報に載せるのは中々順番が回ってこなくて壁が高いが、環境保全課のホーム

ページの載せるのであれば環境保全課の判断で出来るのではないか。また、市民会議パンフレットの裏面で広報していけば良いのではないか。

参加者 プラスチック製容器包装は量の話は出るが、コストの話が出て来ない。他の市で金が掛かりすぎるので分別を止めたところもある。コストはどうしても良いというのであればそれで良いが、コストを示してほしい。例えば 1 千万円掛ければいくら戻ってくるのか。

事務局 生駒市で 1,000 トン集めるのに 1 億円掛かっている。

参加者 再生するためにもエネルギーを使っているし、炭酸ガスも排出している。

事務局 プラスチック容器包装を始めるときに、当時の委員さんの中でそういうことの論議をされて決めたことだと思っている。

参加者 国が決めたことだから反対はしていないがコストを示してほしい。莫大な費用が掛かるのならやらない方が良いと思っている。

事務局 プラスチック製容器包装は、見える形で減量しているので意識の方が大きいと思っている。戻ってくるのは 200~300 万円ぐらいだが、市民の方に分別の意識を持っていただいてごみを減らす意識づけが大きいと思っている。

参加者 住民レベルではみんなプラは儲かっていないことを知っている。大事なことだと言いながら分別している。大体の人は、プラは儲からないし、逆に損をしていることは知っている。そういうことをしていくことが大事だと思っている。

参加者 金額的に戻ってくることだけでは見えないことがある。石油製品がどれだけ循環しているかとの部分がある。それは金額に換算できるかということもある。住民がコストだけを考えるなら燃やしたほうが良い。生駒市は環境都市としての歩みを始めたということで、プラの回収を始める前にそういう議論があって、コストがかかることは議論されて、それでもプラの回収を始めようということになった。

参加者 そのときにコストがどれくらい掛かるかの議論をされていますか。

参加者 当然している。きちんと数値を示して議論した上で、生駒市としてはコストが掛かっても環境保全の方を選んだという経緯がある。

参加者 どれくらいコストが掛かったんですか。

事務局 1 億ちょっと掛かって容リ協から帰ってくるのが 200~300 万円です。これで 1,000 トンのプラを処理している。

参加者 それぐらいの額なら、燃やす選択もあり得たが、そちらを選ばなかった議論の積み重ねがあるので、それを戻すのであればそれなりの論議が必要になる。

参加者 私は、戻せといっているのではない。コストが 1 億掛かって 300 万円は知っていますか。

参加者 皆お金が掛かっていることは知っている。金額ではなく、お金が掛かっていることは皆知っている。

参加者 家庭ごみ有料化の収入を資源化に使うことも可能ではないか。

参加者 新聞・段ボール・ペットボトル・牛乳パックは、コスト率がよい。プラごみは

コスト率が悪い。

- 座 長 ごみ半減の推進を論議するときに、生駒市は費用面ではなかった。他市は最初に掲げているものは財政難、生駒はそういうことがなかった。循環型社会・環境ということで分別・資源化していきましようということが基本にあった。全住民が対象で、コストを重視する人もいる
- 事務局 資源化はどうしてもお金が掛かる。その金額を出していくかどうかはこちらの判断もあるが、すべての金額を出しているわけではないが、知りたいとの希望があればお伝えすることはできる。

●生ごみ処理器「キエーロ」アンケート集計結果

- 事務局 <生ごみ処理器「キエーロ」アンケート集計結果の説明>
- 座 長 事務局の説明に対して質問やご意見ございませんか。
- 参加者 アンケートQ4で回数を書いているが、どれぐらいの量、何ℓを何回入れたのか質問がないが、量も必要ではないか。
- 事務局 次の質問Q5のところでは重さ(kg)で回答してもらっている。容量(ℓ)ではないが重量(kg)でしているので換算してほしい。
- 参加者 市民レベルで言えば、ごみを出しているのが袋なので、ごみ袋がいくら減ったかがわかりやすいと思う。
- 参加者 その場合は、使い始める前に、どの袋をどれだけ出していたかを記録しておかないと、減ったけれども記憶が曖昧で記入出来ないと思う。
- 参加者 キエーロを使用しているかどうかは、バクテリア de キエーロは80%、プランター de キエーロは少なかったが、まあまあ使っているとの評価なのか。
- 参加者 よくやっている。私達でも徹底してはできない。
- 座 長 一般論で言えば8割が使っていれば上出来だと思う。
- 事務局 100%は絶対に無理だと思うが、8割は上出来だと思う。プランター de キエーロは、対象が小学生で62%と低かったが、次に対象が大人の分もやるのでその分と比較していきたい。
- 参加者 キエーロは、全世帯の何%ぐらいの人が持っているのですか。
- 事務局 0.何%、1%もない。まだ、本格的なキエーロは、まだ40台だ。
- 参加者 頑張っても、世帯数からいって1割いかない。
- 参加者 さっきの話にあったが、意識の改革だ。
- 参加者 私の経験から言って、今使っている人は月8回入れている人が一番多いが、その割には量が5kgから8kgしか入れていない。もっと入れることが可能だ。
- 事務局 このバクテリア de キエーロも講座用に作った小型のものだ。
- 参加者 葉山のビデオを教科書とされて、台所で溜めて大変だったという方もおられたが、今はキエーロの使い方パンフレットを作ったので、今後はこのようなことは無くなると思う。
- 座 長 パンフレットを作った効果が出てきた。送付したパンフレットが最初から貰え

- れば良かったという意見もあった。パンフレットも改善していきましょう。
- 事務局 ビデオは、キエーロの大きさも違うのでイメージが湧かない部分もあったと思う。
- 参加者 キエーロは、普及にもほど遠いが、普及させるのであれば、漠然としていても仕方がないので、一定の目標、例えば生ごみ処理器を全世帯の1割程度普及させる等の目標が必要ではないか。また、食品ロス等でいくら減らせるか等の机上の計算になると思うが、ある程度の見通しを持たないと、平成30年度で25%削減はできないのではないか。
- 座長 例えば、市内全域では難しいのでモデル地区を作って、意見を聞いていくことも必要になっていくのではないか。
- 参加者 キエーロを使っているが、私の場合は、燃えるごみの収集が週1回になれば、仕方なくキエーロに入れるようになると思う。週2回収集があつて袋に余裕があれば生ごみを入れてしまう場合がある。捨てるところが無ければキエーロを利用するようになる。私の場合は、週1回の収集でも良い。
- 参加者 私は、ごみの量は分別してもしなくても個人から出るごみは減らないと思っている。相対的には減らない。それと食品ロスは別のものなのでどちらも同時にしていかなければならない。
- 座長 全体の量の話がされているのですか。分別すれば燃えるごみは減ります。先日、大阪の研修で専門の先生の話聞いてきたが、その先生は、ごみを減らすために物を買わないことだと言っておられた。実際に写真を見たが、家にはものが無くて綺麗でごみが無い。私は、そんな生活はできないが、そういう方もいらっしゃるし、ごみに関する考えは、いろんな方がいらっしゃる。どれが正しいとか間違っているとかではなくて、そういう方に説明していかなければならないということです。
- 参加者 終盤になってきたので、3月までに食品ロスのイベントをしても良いですか。ごみ減量市民会議を母体として良いのか、健康課にも係わっているが、健康課は総会で食品ロスの講師を呼んでイベントをしてくれる。
- 事務局 予定しているので、会議で諮って進めてほしい。
- 参加者 縦割りではなく生駒市全体で考えていったら良いと思っている。環境保全課だけではなくいろんな切り口を考えていけたらよい。来年3月までに広報で公募して食品ロスの講習会を実施していきましょう。
- 参加者 生駒市では事業系のごみの量を把握されていますか。生ごみの量はわかりますか。商店では生ごみを別に集めているのか。
- 事務局 燃えるごみの量は把握している。エコパークに搬入している生ごみの量はわかる。燃えるごみの中から生ごみは分別していない。
- 参加者 エコパークに搬入する生ごみは、袋・ラップ等を全て取ってもらわなければならない。スーパーさんとかもそこまでは出来ないということなので、出来る範囲内の協力をいただいているだけだ。

参加者 百貨店とスーパーは殆ど出してもらっている。小売店ではそこまで出来ないの
で、混ぜて出している。ただ、量は一般家庭がはるかに多い。

参加者 清掃センターでは有料化になって量は減っているんですか。

事務局 1年間で3000t減っている。フェニックスに行くのも300t減っている。

参加者 そういうことをもっとピーアールしてほしい。

事務局 広報等で1月にも特集号を組んで載せさせてもらっているが、発信はしている
が受け取ってもらえない。

参加者 市民はそういうことを知りたいと思っている。

参加者 有料化によって減っていると言っているが、分別が進んでいて、有料化しなく
ても減っていると思っている。

事務局 有料化である程度減ったと認識している。

参加者 有料化前にモデル地区を3ヶ所選定して分別を行ったが、減らなかったという
事実がある。分別と有料化の双方で減っている。

事務局 有料化前からプラや紙の分別を行ってそれで減っている。画期的に減って
いる。ただ、事業系は、病院やスーパー等が増えているので増加している。

座長 組成調査をやると言っていたが、どうなっているのか。

事務局 時期的なものを合わせて来年3月実施を予定している。

座長 ごみ半減プランは、事業系も含めて半減といっているが、この会議は家庭系の
燃えるごみの減量を目標としている。事業系が増えているとの話があったが、
また、後日でいいので、事業系も含めた推移を参考データとして提示をお願い
したい。

協議事項 ※時間の関係で次第の協議事項の順を変更

●いこま魅力博での啓発活動について

事務局 <いこま魅力博での啓発活動の説明>

座長 事務局の説明に対して質問やご意見ございませんか。

参加者 キューロ展示の時に土を入れたものを展示してはどうか。空き箱で土がないと
イメージがわからない。

参加者 他で以前から展示していたが、後処理が大変で出来ない。

事務局 プランターde キューロなら可能なのでさせてもらおう。

参加者 キューロの販売も考えているとのことだが、どのくらいの数を考えているのか。

事務局 当日は、10台ぐらいを持参しようと思っているが、あとは申込を受けていこう
と思っている。

座長 市民会議から参加していただける方を募ります。
《参加者調整》

事務局 参加いただける方はよろしく申し上げます。名前のあがっていない方も、時間
があれば、顔だけでも出して下さい。

参加者 チラシのエコクッキングに「栽培される際にエネルギー消費が少ない」とある

のは、理解できない。

- 事務局 その部分は、削除するようにさせていただきます。
- 座 長 アンケートで「生ごみ処理器を使っていますか。」は、何を使っておられるか聞き取りをお願いします。
- 参加者 この前、話をされていて、「水切り」の概念が人によって違うことがわかりました。ある人は、三角コーナーに入れて置くことを「水切り」と思っておられ、ある人は、三角コーナーに入ったネットを手でしぼることを「水切り」と思っておられた。個人差があるので具体的にどういうふうに水切りされているか聞き取りをお願いします。

●自治会懇談会について

- 座 長 現時点でひかりが丘自治会と壺分西自治会を予定しています。壺分西自治会の日程は12月15日の18時からで調整中です。
- 参加者 南地区では、北小平尾自治会にも依頼をかけています。
- 参加者 北地区は他にもないかと考えていますが、ひかりが丘自治会は、12月3日の不用品交換会の日で調整中です。内容等事務局と相談させていただきます。
- 事務局 詳細が決まりましたら、事務局で調整させていただいて、メンバーの皆様に詳細を連絡させていただきます。参加できる人は出欠の連絡いただきますようお願いいたします。
- また、10月3日に育児サークルの代表者に懇談会の開催依頼を行いました。5つのサークルの代表者が参加いただきました。開催依頼があれば連絡させていただきます。

●前回会議での分科会について

- 座 長 前回、3つの懇談会「広報・懇談会・キエーロ」をやったわけですが、短期間にはなりましたが、それぞれこうやったら良いとのご意見をいただきました。これについて、今後どう進めていきたいと思いますかとの皆さんのご意見を諮りたいと思います。分科会は、今後2回に1回ぐらい開いた方が良いのか。同じメンバーで今回決めたグループで具体的にブレークしていく形式を取るのか。今日の市長の話とか全体を踏まえて、今後どうしていくのか考えていかなければいけないかと思います。
- 例えば、一番先頭にある広報については、タイトルを絞って発信していったらどうかという。そのときの旬の話題の小型家電回収ボックスについてにしていますが、アナウンスの方法は自治会への回覧、集会所へ持参、商工会等の意見がありました。
- 今までのアイデアでもいろんな方から広報誌での広報ということが出てくるが、生駒市の広報は人気があるから中々順番が回ってこない。中々定期的にコラムを追加していくということは現実的に非常に難しい状況にもなっています。

現実な現象を踏まえて、先程の紙で作って回覧していくというのもいいですが、環境保全課ホームページと SNS の利用等によって、環境保全課ですぐに出来ることやっていく。頻繁に出していく。直ぐにポンと顔を出せるような形で、その辺を検討していただきたい。

事務局 市ではツイッターは頻繁にやらせていただいているが、反応はいまいちで、いろんなことをやっていかないと皆さん見られない気がします。

座 長 小型家電回収ボックスの設置場所は、6ヶ所から増えるのですか。

事務局 市内のスーパーさん等に個別に交渉中です。

座 長 懇談会の方はどうなっていますか。

参加者 いくつかの自治会さんから予定を出していただいているのですが、出来ればもう少し懇談会をできる自治会さんを増やしたいと思っています。各地区で懇談会を開いていただける自治会を探していただき、すべての地区で懇談会を実施していきたいと考えています。一つの地区で複数の自治会さんで実施していただいても結構です。自治会に限らず地域の中の婦人会や老人会等の特定の団体さんで懇談会をしたいと言っただけならば、自治会に拘らなくても良いかと思っています。いろんな機会を捉えて懇談会を実施していけば良いと言うのが分科会での意見でした。よろしくお願いします。

座 長 懇談会で事前打ち合わせをするのですか。

参加者 行ったことの無い自治会さんについては、会長さんにある程度どんな話をするかを認識していただく必要があるので、事前打ち合わせをさせていただこうと考えております。

座 長 キューロの分科会は、どうですか。

参加者 その前に、あの分科会については、メンバーは固定ですか。

座 長 それをどうしますかとのを提案しています。分科会の進め方、今後、継続していくのかどうされますかと提案しているところです。

参加者 キューロについては、議事録に記載されているとおりで、これ以上のことは言えません。

座 長 それでは、分科会について、今後も継続していくのか、後の2回の会議の内で1回分科会をするのか、全体でブレイクしていくという選択もあるが、止めるという選択もあると思うのですが、

参加者 分科会のメンバーは、希望を聞かずに割り当てで決めている。分科会は賛成ですが、メンバーの希望を入れた分科会にしてほしい。

座 長 前回は、3つの分科会でした場合、全体の人数が少ないので、1つの分科会が5人程度になり、すべて希望を聞いていたら、ある分科会だけが多くなるので、それもいかなものかということで、1回目はクジでやったわけです。メンバー構成やテーマもこれで固定していこうということでもないし、皆さんから声が出ていた「広報」「懇談会」のキーワードも出ているし、行政からも「キューロ」というキーワードが出ているので、この3つでスタートとなったわけです。

こういう物に関してテーマについて少人数で話し合ったほうが良いということがありましたら事務局の方に提案していただけたらいいかと思えます。

分科会をどうするかについては、事務局のほうとも調整させていただきますが、ここに上がっているテーマについては、間違っているわけではないので、これを粛々とまとめていくということにしたいと思えます。

参加者 座長がおっしゃったように、毎回は無理があるので、あと1回は分科会という形で突っ込んだ話をしたらどうかと思えます。広報の話も出ていましたし、懇談会は実施したあの方がほんとはいいとは思いますが、時期的なものも調整いただけたらと思えます。

座長 次の事業計画に絡ませていきたいと思えます。
本日は、ありがとうございました。